

# 法政就業力通信

～今月のさんぽ道～

法政大学

就業力育成 3D 教育プロジェクト

<http://3dep.hosei.ac.jp/>

就業力育成 3D 教育プロジェクト

## もっと五感を使おう！

特任教員 有田 五郎（ありた ごろう）



### 略歴

70年 慶応義塾大学経済学部卒

70-06年 伊藤忠商事(株)勤務

06-11年 帝京大学

法政大学職員。

11年～ 法政大学教員

今回はセミナー報告です。五感の力を学ぶセミナーに参加してきました。

社会では「自ら考え、自ら動ける」人材が求められています。担当するキャリア科目でグループワークでの他者との交わりや他者の考え方に触れることから、学生達にこの力を付けさせる取組みをしています。この求められる人材づくりに今回のセミナー参加が新たな視点を与えてくれたのでこの紙面を使って紹介させていただきます。

### 五感の力とは？

五感は人間という種に備わっている、目の前の現実から情報を引き出す力です。目の前の現実とは、人・物・出来事との出会いと言えます。

### 五感を用いることの人間関係への論理

次のように論理展開されます。1. 五感の用い方は一人ひとり偏りがある。2. 同じ時間・空間を共有していても体験していることは違う。3. 人間関係は一人ひとりが違っているという所からスタートすることが大切。4. コミュニケーション・分かち合いが必要。5. 五感を磨くことで共感の回路を開く。

これも毎回のごとく書いていることですが、現代の若者は臆病で自分だけが安心していられる便利な世界、すなわち IT・ネット・SNS 及びゲームなどに没頭している傾向があります。このセミナーでは人間には3つの叡智があると、次のように区分けして考えます。

### 人間の3つの叡智

- ・思考の「あたま」。意思の叡智と生きる力の元。そして事物の本質や法則を認識する。
- ・感情の「こころ」。関係の叡智と結ぶ力の元。そして事物からの印象を形成する。
- ・五感の「からだ」。出会いの叡智と関わる力の元。外界の事物を受け取る。

受験勉強に没頭してきた学生は、とにかく「あたま」を使う訓練をさせられてきました。この実態を現代は知性偏重と言えます。すなわち「こころ」と「からだ」の持つ叡智の活用を置き去りにしてきています。だからこそ、人との出会いや関わりが少なく、もっと言えばそのやり方が分からない姿があります。そこで、まず五感から始めるという考え方が大切になってきます。具体的には次のように3つの叡智を下から順に活用しようとの提案になります。

### 3つの叡智活用ステップ

1. 五感を使って、出会いに気付く。
2. すると心が動く、すなわち感情を使って、どうしたいか？を考える。
3. そしてどうするか？を、思考する。それが生きる力になる。

最後に人が五感のどれを優位に使うかで行動タイプが異なるとの分析がなされていました。まずはここから入って、五感の大切さに興味を持ってください。

- ・視覚優位の人…計画タイプ
- ・聴覚優位の人…慎重タイプ
- ・嗅覚優位の人…調和タイプ
- ・味覚優位の人…反射タイプ
- ・触覚に開かれている人…マイペースタイプ



**略歴** 84年名古屋大学大学院卒。京都大学博士(経済学)。84～89年京都大学経済研究所助手、90～97年滋賀大学経済学部助教授・教授。97年～03年法政大学経営学部教授、04年～IM研究科教授。

## 幅広い知識と深い思考がコミュニケーションの質を決める

**教授 藤村 博之 (ふじむら ひろゆき プロジェクトリーダー)**

コミュニケーションは、通常、意思疎通と訳されます。自分の意思と相手の意思を通わせる行為ですから、当然、双方向の情報のやりとりが行われます。そして、その質を決めるのは、その人が持つ総合力です。具体的には、言葉づかい、声の質、声の大きさといった表面的なものから、的確な話題の選択、その話題に関する情報の幅と考えの深さ、相手の意見への的確な反応といった深層に関わるものまで様々です。

学生たちは、表面的な部分に目を奪われがちですが、本当に大切なのは深層の部分、すなわち、物事についてどれだけ真剣に深く考えているかです。この点を大学生活の中でしっかりやってこなかった学生は、採用面接において、どんなに取り繕ってみても、すぐに底が割れてしまいます。話題の豊富さと思考の深さは、大学での勉強を通して身につけられるものです。このことは、強調してもしすぎることはないと思います。

## プロジェクトの一つの成果？

**特任教員 鈴木 美伸 (すずき よしのぶ)**

倫理憲章の改訂で、8月から企業の採用選考がスタートしました。この時期の設定が妥当かどうかはさておき、憲章を遵守していた企業のために、3Dプロジェクトに関わる各大学等にお声がけして企業説明会を開催しました。

その業界説明に我々のビデオ教材を使ったところ、学生から「ふつうの企業セミナーで使われるようなイメージ優先ではなく、また仕事の細切れ紹介でもなく、流れが理解出来て良かった。」との感想を戴きました。こうした授業以外でのビデオ教材の使い方も有効ですね。

この試みから、数名の内定者も出ました。これをキャリア教育の成果と喜んで良いのかわかりませんが、企業と学生の双方に役立てたことは幸いです。



**略歴**：日米ハイテク企業での営業・人事を経て人事コンサルタントとして独立。キャリアカウンセラー資格取得後は多くの大学でキャリア論の講師を務める。

## 学生の中に伝わる就活マニュアルに「？」を感じる時

**小金井事務部学務課長 細田 泰博 (ほそだ やすひろ)**

この号が出る時は10月1日の「内定発令日」が過ぎていることでしょうか。今年大きく変わった(はずの)採用スケジュールの成果はどうだったのでしょうか。

この間、目にしたことですが、学生がクラブのOBに「先輩の会社に内定を戴きました。」と報告、先輩は「なんだ、先に言ってくればいろいろ言っあげられることはあったのに。」当然、私もそう思ったのですが、なぜ彼(彼女)は事前に相談しようと思わなかったのか？これをきちんと分析した方がいいかと思いました。以前書いたように「3年のうちにインターンシップを経験しないとどこにも採用してもらえない」といったことがまことしやかに伝わっているように、「リクルーター以外に相談すると落とされる」「OBに相談したらゼッタイ断れない」といったことが「マニュアル」になっているのかもしれませんが。就活が受験のようにマニュアル重視となっている今は、大人がそのヘンテコな部分を指摘・是正してあげる必要があると感じています。



**法政大学社会学部社会学科卒業  
学務部教育支援課、学部事務課を経て  
小金井事務部学務課長  
本学応援団総監督**

### ◆ ジャパンタイムズで英文記者体験

法政大学の秋のプログラムでは、日本への留学に関心がある外国人向けに、本学や東京の魅力を伝える英文パンフレット制作を体験する「英文記事ライティング講座」を実施します。この講座では、ジャパンタイムズの記者が直接、題材の選定や取材方法、英文記事の書き方をレクチャーします。外国人が求める情報とは何かを考え、取材を行い、それを伝える記事を書き上げて完成したパンフレットは、実際に本学で配付されます。

- ◆ **編集後記**：マニュアル重視の弊害を細田課長が書いていますが、マニュアルと聞くと自動車のマニュアル車とオートマ車を思い浮かべる人もいるのではないのでしょうか。自動車だと「手動」で臨機応変にギアチェンジできるのがマニュアルで、何にも考えずにアクセルだけ踏めば「自動」に動くのがオートマです。あれっなんか意味が逆?!それはさておき、マニュアルとはすなわち手引書、取扱説明書です。そのうちマニュアルを渡せば「自動」で仕事ができる「マニュアル人間」を超えた「オートマ人間」が出現するかも?!ますます悩ましい…。そういえば、11月14日(土)に市ヶ谷キャンパスでFDフォーラム「大人数授業での工夫」が開催されます。そこで細田課長が事務職員の立場で話題提供することになりました。なぜ彼が「クリッ課長」と呼ばれているか、その謎が明かされると思います。(事務局 平山)

法政大学 産学連携 3D 教育プロジェクト (事務局:学務部教育支援課)

〒102-8160 東京都千代田区富士見 2-17-1

TEL: 03-3264-9520 WEB: <http://3dep.hosei.ac.jp/>

**就業力育成3D教育プロジェクト**